

恵那二学塾が開校

生涯学習都市

「三学のまち恵那」宣言

四季を彩る里山 清き水の流れ
 豊かな時をつなぐまち 恵那
 このまちに生きて
 書を読み 人に学び
 歴史と文化 自然に学び
 学び続ける 喜びをひろげ
 希望あふれる 未来を創る
 私たちはこのまちを
 子どもから大人まで
 共に学び 生かしあう
 三学のまちとすることを宣言します

平成二十三年四月一日制定



▲三学の精神を理念に制定された三学のまち恵那宣言（写真は三郷町からアルプス方面を望む）

市では、生涯学習によるまちづくりを進めています。郷土の先人、佐藤一斎の「三学の精神」を理念に、平成22年に三学のまち推進計画を策定。さらに、平成23年には、「生涯学習都市三学のまち恵那宣言」を行いました。この宣言は、市民の皆さんと共に市を挙げて生涯学習のまちづくりに取り組もうという宣言です。そして、三学の精神を基に「読書のすすめ」「求めて学ぶ」「学んで生かす」の三つを柱とした市民三学運動を進めています。

市では、さらに生涯学習のまちづくりを発展させるために平成25年度から、生涯学習講座を一元化・体系化した市民大学「恵那三学塾」を開校します。

今回は、市の生涯学習講座の中心として期待される、市民大学「恵那三学塾」についてお知らせします。

□問い合わせ 生涯学習まちづくりセンター 02010217

生涯学習とは

現代の生涯学習の目的には、自己の教養や技能を高める「個人の創造」と地域の課題などに取り組み、豊かな地域社会を創る「地域の創造」があります。市では、この2つが結び合い、やがてまちづくりへ結集し合う知の循環が生まれていくことを目指します。

現代の生涯学習とは

私たちを取り巻く社会環境は、大きく変わってきています。

市民活動や地方分権の進展、新しい公共・協働が活発化する一方、少子高齢化や過疎化、地域経済の疲弊、自治体の財政難、そして地域のつながりが希薄化しています。

こうした地域社会の問題を解決するため、生涯学習の必要性が高まっています。全国的に見ると、わが国の生涯学習政策の指針の中でも「生涯学習振興の要請―高まる必要性と重要性―」として次の4点が取り上げられています。

- ①国民が生涯にわたって行う学習活動の支援の要請
- ②総合的な「知」が求められる時代―社会の変化による要請
- ③自立した個人の育成や自立したコミュニティ（地域社会）の形成の要請

④持続可能な社会の構築の要請

特に、③の自立した個人の育成や自立したコミュニティの形成の要請が、高まっています。

これまでの講座の傾向

市では、平成17年から地域自治制度を導入し、地域ごとに特色あるまちづくりを展開してきました。平成22年2月には市三学のまち推進計画を策定し、平成23年4月には「生涯学習都市三学のまち恵那宣言」を行うなど、生涯学習によるまちづくりを進めています。

本年度市が開催した講座は、各コミュニティセンターで開催する市民講座が320講座、市職員やボランティア講師による出前講座が166講座の合計で486講座ありました。昨年度の参加者は、市民講座では5026人、市民三学地域委員会が開催した地域塾では1692人、

出前講座では4199人でした。市民の約20割に当たる約1万1千人の方がそれぞれ学んでいます。

生涯学習には「個人の創造」と「地域の創造」の二つの目的があります。しかしながら本市を含み全国的な傾向として、公民館などで開催する生涯学習講座は、個人の趣味や教養的なものに偏っています。また市の講座を個別にみると、内容などに大きな隔たりや課題もあります。

本市の市民講座も趣味的な講座が多く、まちづくりに結びつくような講座があまりありません。また職業能力向上や資格取得につながるような講座や、大学と連携した講座もありませんでした。市政などを紹介する出前講座の行政編では、申し込みが全体の約20割しかなく、自主企画講座の実績は、1件のみでした。また市民意識調査で、44・4割の

市民が市民三学運動を「知らない」と答えています。

恵那三学塾でまちづくりを発展

市では、これらの問題を総合的に解決し、市民挙げての生涯学習のまちづくりへ発展させるため、新たに「恵那三学塾」を開校します。

恵那三学塾では、これまでの講座を一元化や体系化して再編。新たに政策や産業経済、まちづくりに関するコースを設置しました。さらに市民参画が進むように支援するため、自主企画講座や市民登録講師制度を再整備しています。

市では、この恵那三学塾が幹となって「みんな学んで幸せになろう」とする知の循環が起こること、新しい公共や持続可能な社会の構築といった枝葉を広げ「生涯学習都市三学のまち恵那」という花を咲かせたいと願っています。

三学の精神とは

「社会に役立つ有為な人になろう」と生涯学び続ける志です。これは岩村藩出身の儒学者佐藤一斎の言葉で「三学戒」と呼ばれています。市では、これを「三学の精神」と捉え、市民三学運動の理念としています。

市民三学運動とは

生涯学習のまちづくりを進めるため「読書のすすめ」「求めて学ぶ」「学んで生かす」の三つの柱を基に、読書に親しみ、学びを広げ、学んだことを地域社会に生かしていくことです。

柱1 読書のすすめ

市中央図書館を学びの場、読書推進の核として、小中学校や各コミュニティセンターなどとネットワークを強化し、連携しながら子どもも大人も高齢者も生涯にわたって楽しく学ぶことができる読書のまちをつくります。

柱2 求めて学ぶ

市民の皆さんが、いつでもどこでも自ら求めて主体的な学びができるよう、必要な支援を図ります。そのため各コミュニティセンターや文化会館などでの学習機会の充実や、地域の文化活動、まちづくり活動などの支援を行います。

柱3 学んで生かす

生涯学習で得た成果をまちづくりやボランティアなど地域や社会に還元し、さらにその活動から生まれた新たな課題を学習するという、学習サイクルの仕組みを構築します。

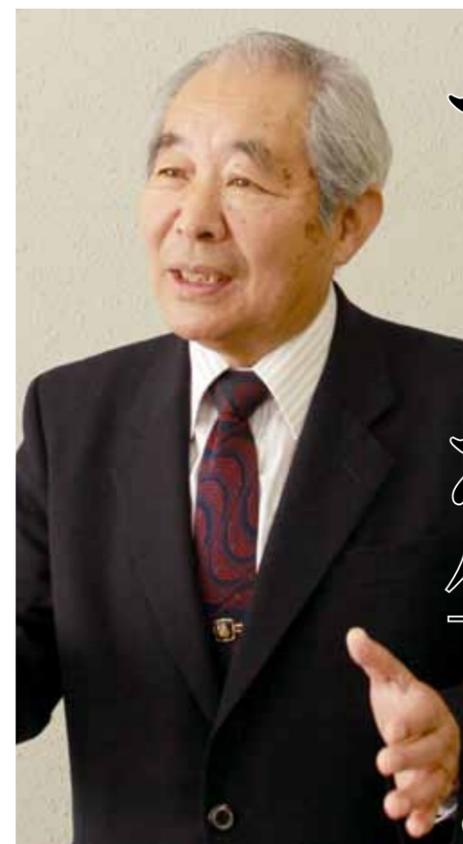
◀市民三学串原委員会が企画し串原で愛知学院大学吹奏楽団と交流



学びと暮らしが生きる喜び

今、社会環境が大きく変わる中で、その意義が問われている生涯学習。新たに「恵那三学塾」として生まれ変わった市の生涯学習について、意義や地域との関わりについて語っていただきました。

市民三学運動
推進委員会
近藤慎平委員長



●プロフィール
(こんどう しんぺい)
小中学校長、瑞浪市教育長を経て、現在、市民館運営審議会委員長、市民三学運動推進委員会委員長、市民三学中野方委員会委員。平成22年まで市生涯学習都市宣言策定市民委員会の委員長を務め「恵那三学のまち推進計画」を取りまとめる。同年5月に市民三学運動推進委員会発足とともに同委員長に就任。「生涯学習都市三学のまち恵那宣言」の制定に尽力。中野方町在住。

充実した恵那三学塾を紹介

公共政策としての生涯学習

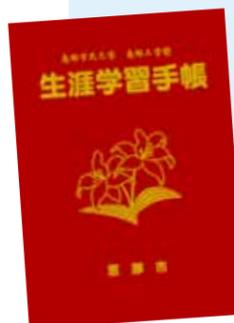
生涯学習の定義は、さまざまであり個人によって捉え方も違います。特に1980年代のバブル期に国の政策として始まったことや、通信講座やカルチャーセンターが盛んになったことから、余暇のたしなみと想像する人も少なくありません。しかし公共政策としての生涯学習は「学んだことを生かして、まちづくりへ参加する」など、地域への還元という視点が重要です。

市では、平成22年度から市民三学運動の推進委員会や地域委員会を組織し、市民三学地域塾費といった財政支援も行って、市民主体の生涯学習政策が展開されてきました。

しかし市民からは「いったい市の生涯学習は何を目指しているのか」「市民三学地域塾の予算は何に使えばいいのか」といった声もたくさん聞かれ、3年を経過してもなかなか成果が見えてきませんでした。こうしたことから生涯学習の原点に立ち戻り、再出発しようと考えました。改めて市の生涯学習が抱えている課題、目指している意義と目的を明らかにし、それを進めるための体制の整備を行いました。

とは、実に地道なものであり、地域の人々の日常の活動そのものです。本市で言うならば、地域自治区のまちづくり実行組織が行う活動がその代表例です。残念ながら今までの本市には、まちづくりを担う人たちが必要とする知識や知恵が学べる生涯学習講座は、十分とはいえません。このような問題を解決するため、新たに政策コースや産業経済コースを設置することになったのです。大きく変わっていく世の中で、経済や行政の第一線で活躍する方たちから学び、時代を見据えてまちづくりに反映していこうというものです。

生涯学習手帳で学習を記録



恵那三学塾では講座の受講者に、希望に応じて生涯学習手帳を配布します。講座を受講するごとに、シールを手帳に貼っていきます。学びの履歴を記録して、一定の単位取得者に認定証を授与します。

現在、市では、年間約1万1千人の方が生涯学習講座を受けています。大変喜ばしいことですが、多くの方が参加しただけでなく、「どれだけの人材が育ったか」という中身を考えることも重要です。今回新設した政策コースや産業経済コースの定員は、最大40人。決して多くはありませんが、明日の地域を担う人々が、毎年40人受講すれば10年で400人のリーダーが育つことになります。

もちろん講座を受講したからといって、いきなりまちづくりを担えるわけではありません。人々は、日々のまちづくりの中で、課題に突き当たり解決のために学び合い、そしてまたまちづくりを実践します。まちづくりとは、この繰り返しだと思います。この学びのお手伝いを

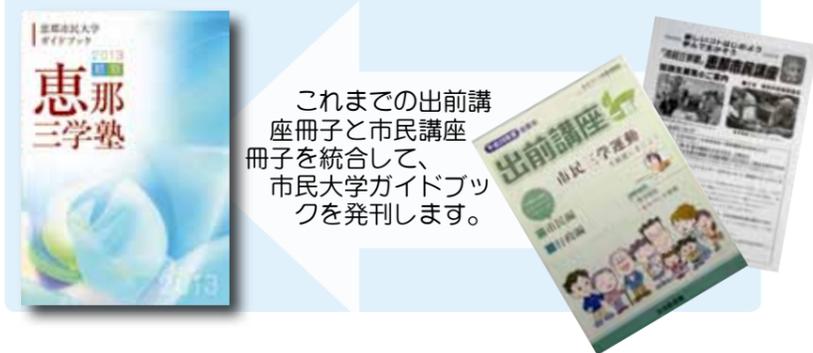
3コースと市民参画で構成

恵那三学塾は6体系に分かれ、教養コースと産業経済コース、専門編を含んだ政策コースの3コースと市民参画による講座で成り立ちます。教養コースは、主に趣味、教養を高めるコース。今まで、各コミュニティセンターで行われていた市民講座を、そのまま継続します。さらに市と連携協定を結んでいる実践女子学園の連携講座も開設します。来年度は、実践女子学園の講師陣を招き「食育講座」と「下田歌子講座」の2講座を開講します。

一人の喜びをみんなのものに

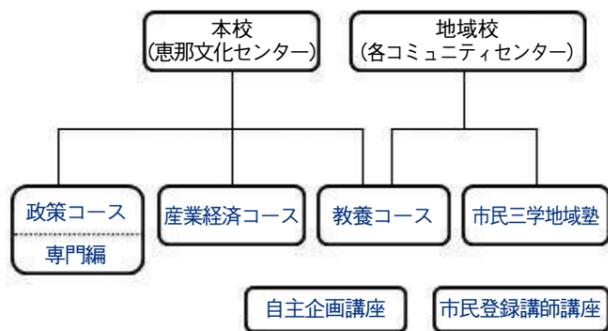
毎日充実した時間を過ごすことは誰もが望むことです。それは提供されるものではなく、求めることで生まれるもの。生涯学習はそれを実現する有効な手段です。学習の成果を一人にとどめるだけでなく、地域に役立ててみてください。一人の喜びを、みんなの喜びにつなげる。やがて喜びの和が広がっていく。そんなまちをつくっていききたいものです。

既存の講座冊子を統合



これまでの出前講座冊子と市民講座冊子を統合して、市民大学ガイドブックを発刊します。

恵那三学塾体系図



6体系の内容を紹介

◆教養コース◆

趣味、教養を高めるコースです。市と連携協定を結んでいる実践女子学園の連携講座も実施します。

◆政策コース◆

市職員が講師となり、地域自治や市の政策を学ぶ常設型のコースです。また各担当課で行っていた講座・研修などを専門編と位置づけて実施します。

◆産業経済コース◆

地元の産業経済や先進地のまちづくりのノウハウを学び、経済や経営に関するスキルアップを図るコースです。

◆自主企画講座◆

市民の自主企画により提案された講座です。

◆市民登録講師講座◆

市民登録講師が会場へ出向き実施するものです。これまでの出前講座の「市民編」「公共機関・公益法人・民間企業編」を移行するものです。

◆市民三学地域塾◆

各地域の市民三学地域委員会により提案された講座です。

新たな講座に注目——主な講座紹介——

産業経済コース

経済や経営スキルを向上

コミュニティービジネスや観光、歴史文化を生かしたまちづくりの手法を学び、まちづくりにつなげていきます。また市内外の特徴ある企業から講師を招き、経営理念や社会貢献活動について学びます。

産業経済コース【前期】		
日にち	テーマ	講師
5月22日(木)	地域特性を活かした「ものがたりビジネス」の創造	滋賀県立大学 准教授 鶴飼 修
6月5日(木)	地域活性化と起業のすすめ	(有)東海バイオ 代表取締役社長 柘植 森衛
6月19日(木)	リニア新時代のまちづくり	PHP 総研 主席研究員 荒田 英知
7月3日(木)	今、企業人に何が求められるか、国鉄改革、広告業の体験から	(株)JR東海エージェンシー 常務取締役 窪田 哲夫
7月24日(木)	信州松代のまちおこし事業「エコール・ド・まつしろ」について	エコール・ド・まつしろ倶楽部 代表 八田 慎蔵
8月7日(木)	経営と景気の基礎の基礎	セントラル建設(株) 代表取締役社長 阿部 伸一郎
8月28日(木)	足助の観光まちづくり	足助観光協会 会長 鱈 雅守
9月11日(木)	「てくてくの旅」舞台裏から見る「まちづくり」について	恵那青年会議所 直前理事長 加藤 規久

産業経済コース【後期】		
日にち	テーマ	講師
10月9日(木)	情報ネットワークの未来	中京学院大学 准教授 梁瀬 洋一郎
11月20日(木)	歴史から学ぶ都市経営と自治	名古屋市立大学 特任教授 吉井 信雄
12月11日(木)	会計入門—決算報告書(財務諸表)の見方—	中京学院大学 准教授 林 雪華
1月22日(木)	まちづくりの経営力	PHP 総研 主任研究員 佐々木 陽一
2月5日(木)	日本の産業のゆくえ	中部大学 経営情報学部長 高橋 道郎
2月26日(木)	わが街アミックスコムからの情報	(株)アミックスコム 代表取締役社長 伊藤 義仁
3月12日(木)	地域経済と地方公共交通問題	中京学院大学 准教授 関谷 次博
3月26日(木)	まちづくり活動で得たもの	マルコ醸造(株) 代表取締役社長 小木曾 智彦

講座受講生を募集

講座の内容や会場など詳細については、本紙4月1日号と一緒に配布する市民大学ガイドブックをご覧ください。
 ○受付期間 4月20日(土)～29日(月)(前期講座)
 ○対象 原則、市内に在住か在勤、在学の方
 ○料金 2000円/回(実費負担がある場合があります。政策コースは無料)
 ○申し込み方法 恵那文化センター各コミュニケーションセンターへ申し込みください。先着順となります。申し込み初日は、該当の講座を開催するコミュニケーションセンターでの申し込みを優先します。
 政策コースは、4月21日(日)から恵那文化施設情報ウェブサイト文化の窓(<http://bunka.city.ena.lg.jp>)からも申し込み可能です。
 政策コースと産業経済コースは、電子メール svougar@city.ena.lg.jp でも申し込み可能です。
 ○問い合わせ
 ▼政策コース・産業経済コース
 25-15121、各コミュニケーションセンター
 ▼政策コース・生涯学習まちづくりセンター(☎2010217)

地域自治や行政を学ぶ

市職員が講師となり、市が取り組んでいる各分野の政策や制度を講義します。地域の課題解決のための政策などについて理解を深めます。

政策コース【前期】			政策コース【後期】		
日にち	テーマ	担当課	日にち	テーマ	担当課
5月15日(木)	市の目指すまちづくりについて	生涯学習まちづくりセンター	10月2日(木)	地域の安心・安全を考える	消防本部
5月29日(木)	市役所のしくみ	総務課 議会事務局	11月13日(木)	社会保障と生活習慣病	健康推進課
6月12日(木)	地域自治区制度 地域協議会	まちづくり推進課	12月4日(木)	国税と確定申告	税務課
6月26日(木)	総合計画	企画課	12月18日(木)	介護保険の仕組みと介護予防	高齢福祉課
7月10日(木)	財政と行財政改革	財務課 企画課	1月29日(木)	障がい者福祉について	地域包括支援センター 社会福祉課
7月31日(木)	都市計画	都市整備課	2月19日(木)	ごみ減量化と3Rの推進	環境課
8月21日(木)	観光	観光交流室	3月5日(木)	農村と里山を守るために	農業振興課 林業振興課
9月4日(木)	子育て支援施策	子育て支援課	3月19日(木)	文化財とまちづくり	文化課

実践女子学園と連携

連携協定を締結している実践女子学園から講師を招き、学祖、下田歌子や食育について学びます。

先人が縁で知の連携



実践女子学園岩村親善大使鈴木隆一氏

岩村町出身で恵那の先人下田歌子がおよそ100年前に創設した実践女子学園と本市は、連携協定を結んでいます。
 5月から開講する市民大学の教養コースに、実践女子学園の先生方による講座が設けられました。歴史と伝統ある学園が培った貴重な人的、知的財産を私たちに紹介し、幅広い教養を身に付けてほしいというものです。ぜひ受講してみたいかがでしょうか。

教養コース【食育講座】		
日にち	テーマ	講師
6月1日(土)	食育について	実践女子学園食育研究所 所長 白尾 美佳
6月29日(土)	食とメタボリックシンドロームについて	実践女子大学 教授 松島 照彦
7月6日(土)	食とこころ	実践女子大学 准教授 水野 いずみ
9月1日(土)	食と異文化(映画の中の食べ物英語)	実践女子短期大学 教授 三田 薫
9月8日(土)	菓子にみる祈りの心	実践女子学園香雪記念資料館 参事 大井 三代子

教養コース【下田歌子講座】		
日にち	テーマ	講師
5月12日(土)	実践躬行	実践女子学園下田歌子研究所 所長 大関 啓子
6月16日(土)	歌子の祖父・東条琴台のことども	実践女子学園 常務理事 安達 勉
7月14日(土)	きらりうたこができるまで	実践女子大学 教授 棚田 輝嘉
8月11日(土)	下田歌子の読書体験	実践女子学園香雪記念資料館 参事 大井 三代子
9月15日(土)	下田歌子と武家の女性の倫理	実践女子学園学園史資料室 浪岡 正継

政策コース

教養コース

